

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 17 日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530358

研究課題名(和文)行動ファイナンスと経済分析の新潮流

研究課題名(英文)Behavioral Finance and New Trends in Economic Analysis

研究代表者

亀坂 安紀子(KAMESAKA, Akiko)

青山学院大学・経営学部・教授

研究者番号：70276666

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題は、経済学やファイナンス分野に心理学分野など他分野の研究成果をとりいれることを目的としており、行動経済学、行動ファイナンス分野などに関する分野横断的な研究を進めた。

本研究課題申請時は、専門ジャーナルなどを通じての研究成果の公表を主たる目的としていたが、実際に研究を進める過程では、内閣府からの派遣でOECDの世界フォーラムにて研究成果を報告する機会を得るなど、国内外の大きな会議やイベントでも研究成果を報告する機会が得られた。

特に、研究最終年度は、ノーベル賞受賞者のロバート・シラー教授と共同で、日本の投資家を対象としたアンケート調査を実施し、その結果を公表する機会が得られた。

研究成果の概要(英文)：This project aimed to proceed economic or financial analysis taking in recent results in other fields such as psychology etc., and have done researches on behavioral economics and finance.

This project's output includes publication in professional journals, oral presentation at international conferences, invited speeches at international and domestic meetings.

The project leader started to conduct investor survey with Prof. Robert Schiller, winner of Nobel prize.

研究分野：経済学

キーワード：金融 ファイナンス 投資家行動

1. 研究開始当初の背景

近年、経済学やファイナンス分野では、心理学や社会学分野の研究結果など、他分野の研究結果を参考としたり、分析手法を取り入れた研究が盛んに進められるようになってきている。本研究は、そのような経済学の潮流を勘案して、分野横断的な視点からの分析を行うことを目的としている。最も重点を置く研究は、投資家行動の解明であるが、より広く、人々の心理的側面を取り上げた研究を進める。

2. 研究の目的

実験やアンケート調査など、経済学分野以外でも用いられる手法により、経済指標以外のデータも自ら収集し、先行研究では必ずしも十分に明らかにされなかった投資家行動や人々の心理面の経済、金融市場に与える影響を分析することを目的としている。

また、既存データなどの分析も行い、行動経済学分野で論文を執筆、公表することも本研究の目的とする。

3. 研究の方法

投資家行動の解明のためにはまず、ネットワーク上に資産取引に関する模擬市場を構築して、投資行動に関する実験を行う。同時に市場予測に関してアンケート調査を実施して、資産価格の変動やバブルの発生崩壊メカニズムを明らかにする。

行動経済学分野の分析に関しては、近年国内でも整備されつつある個票データを使用して、実証的な分析を行う。人々の価値観や幸福感など、心理分野の研究者が扱うテーマに関する分析を進める。

4. 研究成果

(1)本研究課題申請時は、専門ジャーナルや学会報告を通じての研究成果の公表を主たる目的としていたが、実際に研究を進める過程では、内閣府からの派遣で OECD の世界フォーラムにて研究成果を報告するなど、国内外の大きな会議やイベントで研究成果を報告する機会が得られた。

(2)投資家行動の研究に関しては、特に東日本大震災前後の日本の株式市場の分析結果が評価される形となった。2013年1月には、亀坂が単著で執筆した論文が財務省発行の英文雑誌に掲載された。さらに、海外でも非常に有名な John Nofsinger 氏らと共著で執筆した論文が、比較的知名度の高い英文専門ジャーナルに掲載された。日本金融学会発行雑誌の編集者からも、震災に関する特別号への寄稿の打診があり、阪神大震災と東日本大震災の前後の投資家行動を分析した研究結果が掲載された。

(3)投資家行動の研究に関して、特に研究最終年度はノーベル賞受賞者のロバート・シラー

教授と共同で、日本の投資家を対象としたアンケート調査を実施する機会が得られた。その成果の一部は、亀坂のホームページでも公表している。

(4)研究期間中の研究成果は、投資家行動など、金融分野の研究成果だけでなく、経済学およびその周辺分野で多岐にわたって得られた。教育分野の分析、貧困に関する分析、震災前後の日本人の幸福感の分析など、様々な分野にもおよび、かつ、それぞれ一定の評価が得られた。研究成果は、経済分野の学会のみならず、社会学分野の国際学会や、各国の首脳が参加する国際会議などでも報告の機会が得られた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 8 件)

Clark, A., A. Kamesaka, and T. Tamura "Rising Aspirations Dampen Satisfaction." *Education Economics*, 査読有、Vol23, 1-17, 2015. DOI:10.1080/09645292.2015.1042960

亀坂安紀子 「幸福の経済学」『経済セミナー』8・9月号、47-52頁、査読無、2014年。

Hood, M., A. Kamesaka, J. Nofsinger, and T. Tamura "Investor Response to a Natural Disaster: Evidence from Japan's 2011 Earthquake." *Pacific-Basin Finance Journal*, Vol.25, pp.240-252. (2013)、査読有。DOI:10.1016/j.pacfin.2013.09.006

田村輝之、亀坂安紀子、"東日本大震災前後の外国人投資家と国内投資家の行動"日本金融学会編、『金融経済研究』特別号125-136頁掲載、査読有、2014年1月。

筒井義郎、亀坂安紀子、Movshuk、白石小百合、"どのような人が結婚・出産を決意するのか? :アンケート調査の結果"『大阪大学経済学』第63巻、第3号掲載、査読無、2013年12月。

Yamane S., T. Takahashi, A. Kamesaka, Y. Tsutsui, F. Ohtake, "Socio-Emotional Status, Education, and Time-Discounting in Japanese Non-Smoking Population: A Multi-Generational Study" *Psychology*, Vol. 4, No. 2, PP. 124-132, Pub. Date: February 28, 2013、査読有、DOI:10.4236/psych.2013.4201

T. Takahashi 他 "The q-Exponential Probability Discounting of Gain and Loss" *Applied Mathematics*, Vol. 4, PP. 876-881, 2013、査読有、DOI:10.4236/am.2013.43066

Kamesaka, A. (2013), "The Great East Japan Earthquake and Investor Behavior in Japan's Equity Markets" Public Policy Review, Vol. 9 No.1, pp. 71-86, 査読有、Policy Research Institute, Ministry of Finance.

〔学会発表〕(計 11 件)

D'Ambrosio, C., A. Kamesaka, and T. Tamura Multidimensional Poverty in Japan、日本経済学会、西南学院大学、福岡県、2014 年 10 月 11 日。

A. Kamesaka, Understanding Japan after 3.11 from Survey Responses (BIT's 1st Annual Global Congress of Knowledge Economy、中国の青島にて開催) 2014 年 9 月 21 日。

亀坂安紀子, 行動ファイナンスの研究と日本の株式市場 (日本 FP 学会、パネルディスカッション、慶應義塾大学日吉キャンパス、神奈川県) 2014 年 9 月 13 日。

Kamo, Y. and A. Kamesaka "Examining the Structure of Happiness and Life Satisfaction in Japan Utilizing a Large Scale National Survey" (International Sociological Association、パシフィコ横浜、神奈川県) 2014 年 7 月 17 日。

A. Kamesaka, "Effects of the Great East Japan Earthquake on Subjective Well-Being" (International Sociological Association、パシフィコ横浜、神奈川県) 2014 年 7 月 15 日。

A. Kamesaka, "Effects of the Great East Japan Earthquake on Subjective Well-Being" (International Panel Data Conference、一橋大学、東京都) 2014 年 7 月 9 日。

D'Ambrosio, C., A. Kamesaka, and T. Tamura Multidimensional Poverty in Japan、日本経済学会、西南学院大学、福岡県、2014 年 10 月 11 日。

A. Kamesaka, "Rising Aspirations Dampen Satisfaction." 行動経済学会、招待報告、京都大学、京都市、2013 年 12 月 14 日。

亀坂安紀子, "日本の幸福度調査の現状" (JICA、講演、JICA 研究所国際会議場、東京都) 2013 年 11 月 14 日。

Kamesaka, A. "Effects of the Great East Japan Earthquake on Japanese People's Worldviews and Subjective

Well-Being" European Institute of Japanese Studies (EIJIS) Academy Seminar held at Alfred Nobel Auditorium, Swedish Embassy in Japan, March 13, 2013.

Kamesaka, A., "Effects of the Great East Japan Earthquake on Subjective Well-Being" presentation as a panelist at 4th OECD World Forum on "Statistics, Knowledge and Policy" Measuring Well-Being for Development and Policy Making, October 19, 2012, New Delhi, India. <http://www.oecd.org/site/worldforumindia/conferenceprogramme-day4.htm>

〔図書〕(計 3 件)

Kuwahara S., T. Tamura, A. Kamesaka, and T. Murai "Assessing Suicidal Ideation from Responses to Queries on Subjective Well-Being" 2015 年 12 月 Springer 社から刊行予定の図書 "Advances in Happiness Research" の第 12 章に所収。総ページ数 340 頁(予定)。

石野卓也、大垣昌夫、亀坂安紀子、村井俊哉著、樋口美雄他編、『働き方と幸福感のダイナミズム』慶應義塾大学出版会、第 8 章(157-171 頁)「東日本大震災が生活満足度と幸福感に与えた影響」248 頁、2013 年 7 月。

石野卓也、大垣昌夫、亀坂安紀子、村井俊哉著、瀬古美喜他編、『日本の家計行動のダイナミズム - 東日本大震災が家計に与えた影響』慶應義塾大学出版会、第 9 章(255-272 頁)「東日本大震災の幸福感への影響」403 頁、2012 年 6 月。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.cc.aoyama.ac.jp/~akiko/InvestorConfidenceIndex.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

亀坂 安紀子 (KAMESAKA, Akiko)

青山学院大学・経営学部・教授

研究者番号： 70276666

(2) 研究分担者

高橋泰城 (TAKAHASHI, Taiki)

北海道大学・文学研究科・准教授

研究者番号： 60374170